東京で100年以上続く54店舗の「老舗」の旦那衆の集まりです

東都のれん會

江戸・東京散歩＜2＞

日本橋・神田 編

江戸から東京　三代・百年

Edo Tokyo Brand

江戸・東京散歩　＜神田・神保町＞

今回の散歩は、江戸っ子のなかの江戸っ子が住む「神田」界隈と、世界最大の古書店街「神保町」界隈。
最寄り駅は、JR 御茶ノ水・秋葉原駅と、地下鉄の神保町・小川町・淡路町・神田駅。どこから歩き出して、どこをまわって、どこで終わりにするか・・・行程に悩むのも散歩の楽しみ。老舗グルメやショッピングも入れながら、楽しい江戸散歩コースをつくってくださいね。

■神田明神

「神田」という地名は、神様に寄進する稲をつくる田があったことに由来するといわれています。その神田のシンボルが、いわずと知れた " 神田明神 "。
「神田神社」が正式な名前ですが、古くから神田明神、明神様と呼ばれて親しまれてきました。神田明神が芝崎（現在の大手町の一画）に創建したのは、天平 2 年（730）のこと。その後、平将門を合祀し、江戸時代になって駿河台に移り、いまの場所に落ち着いたのは元和 2 年（1616）。
江戸の総鎮守として、華麗な社殿が造営されました。この江戸時代の建築物は、関東大震災によって失われましたが、再建された現在の建物もさすがに豪華です。
毎年 5 月中旬に行われる「神田祭り」は日本を代表する祭りとしてよく知られていますね。

（左画像）神田明神拝殿。お神輿が境内を埋める神田祭は 5 月です。
（右画像）神田明神下に住んでいた銭形平次をしのぶ石碑も建っていますよ。

■神田青果市場発祥の地

須田町の交差点近くに、「神田青果市場発祥之地」の石碑が建っているというので行ってきました。靖国通りの一本裏。古い建物が残っているこのエリアには、週末ともなるとスケッチをする日曜画家さんがいっぱいでビックリしました。とはいっても、この碑はマンションの建物の前にあってひっそり。この場所に青物市場ができたのは、貞享 3 年（1686）のこと。明暦の大火（1657）のあと行われた江戸再建策の一環として、市中にあった青物商が集められ、正徳 4 年（1714）に幕府の青物役所が置かれると、江戸城で使う野菜を納めることとなりました。
つまり、幕府御用達の市場になったということです。幕府御用達の青物市場は、ほかに駒込と千住にもありましたが、この市場は神田川や鎌倉河岸に近い水運の便利な場所でしたし、お城との距離の近さもあって、まさしく天下の台所の中核となったようです。野菜や果物が次々に入荷され、出荷されていく活気にあふれた市場。どんな風景が神田にあったんでしょうね。ちなみに、神田青物市場は昭和 3 年まで続いたそうですよ。

（左画像）「神田青果市場発祥之地」碑。江戸から明治、大正を通して、江戸・東京の野菜の一大市場でした。

（右画像）近くには風情のある民家も点在。

■柳森神社

JR 秋葉原駅のすぐ南側、ビルばかりが建ち並ぶ殺風景な景色のなかに、柳の緑がひときわ涼しげな一画があります。それが、柳森神社。
もともとは太田道灌が江戸城を築いたとき、この地が鬼門にあたっていたことから、鬼門よけとしてたくさんの柳を植え、京都の伏見稲荷を勧進して稲荷神社をまつったのが始まりとか。
その後、神田川（神田上水）が造られ、享保年間（1716 年～ 1736）に改めて土手に柳が植えられると、このあたりは「柳原土手」と呼ばれて、広重の絵にも描かれるほどの江戸名所となりました。柳森神社は、いわば名所のなかの名所として人々に親しまれたわけですね。というわけで、長い歴史を持つ柳森神社ですが、「お稲荷さん」には一般的にはキツネがつきものなのに、この神社は「おたぬき様」。5 代将軍綱吉の母・桂昌院が崇敬していた福寿神を神社内の「福寿社」に移して祀ったことに始まるのだそうですが、境内のそこここで出会う、多彩な形・顔つきのたぬきの像には、やっぱりビックリさせられます。
「たぬき」を「他抜き」にかけて、親子のタヌキ像を拝むと出世し、金運のご利益もあるとか。しっかり拝んで帰りましょう。境内には、ほかに富士塚があったり、力石があったり、幕府が凶作に備えて建てた米の貯蔵庫「籾蔵（もみくら）」跡の標識があったりと、江戸にまつわる見どころがいっぱいです。

（左画像）江戸名所の一つだった「柳原土手」。周辺にビルが建ち並ぶ現代では、この神社だけが、当時の風情をわずかにしのばせています。

（右画像）出世・金運にご利益のある「おたぬきさま」。「タヌキ」（たぬき）にひっかけて、「抜群」の文字が彫られています。

■ニコライ堂

JR 御茶ノ水駅のすぐ南に建つ、ギリシャ正教の聖堂。正式には日本ハリストス正教会教団　東京復活大聖堂教会といいます。東方正教会とも呼ばれるキリスト教の教会で、ハリストス（キリストのギリシャ語読み）復活の福音を伝え、聖體礼儀を中心とした神と人との交わりを守っています。この建物がニコライ堂と呼ばれるわけは、幕末に来日し、以後 50 年にわたって布教活動をして日本で没したニコライ大主教の名にちなむもので、明治 24 年に始まった教会建設はイギリス人の建築家・コンドル（鹿鳴館や旧岩崎邸の洋館も設計した）が指揮し、7 年かかって完成しました。
その後、大正 12 年（1923）の関東大震災で鐘楼やドーム屋根が崩壊し、内部も焼失しましたが、昭和 2 年（1927）に修復工事が開始され、2 年後に完成。屋根と鐘楼の外観は創建当時の姿とは異なっていますが、美しく荘厳な姿で復活したニコライ堂は、現在、国の重要文化財に指定されています。
なお、有名なニコライの鐘は、大小 6 つの鐘があり、日曜日（10 時～ 12 時半くらい）の聖体礼儀の始まりと終わり、ほかに結婚式などで鳴らされます。朝 6 時、正午、夕 6 時にも鐘が鳴りますが、これはテープ録音されたものなんだそうですよ。

（左画像）一般の参観は火～土曜日の午後 1 ～ 4 時。日曜日のお祈りも、誰でも参加できます。
（右画像）ニコライ堂の鐘。

■湯島聖堂

ニコライ堂から北へ。「聖橋」を渡ってすぐ右手の森の中に湯島聖堂があります。湯島聖堂は、もともと 5 代将軍・綱吉が儒学の振興を図るために建て、林羅山の私邸にあった孔子廟と家塾を移したもので、約 100 年後にはここに幕府直轄の学校「昌平坂学問所（いわゆる昌平校）」が開設されることになりました。明治になって昌平校は閉じられますが、その後もこの地には日本初の博物館が置かれたり、東京師範学校（現在の筑波学園大）・女子師範学校（現在のお茶の水女児大）が置かれるなど、近代教育発祥の地となりました。
関東大震災で入徳門と水屋を残し焼失したため、そのほかの建物は昭和 10 年（1935）に再建されたものですが、深い緑と、独特の緊張感のある風格あるたたずまいに心が鎮まります。 最奥にある大成殿は土・日・祝日のみの公開。大屋根にのるシビやこま犬にもご注目を。毎年 4 月の第 4 日曜日には、孔子祭が執り行われています。

JR 御茶ノ水駅のすぐ北側にあるにも関わらず、森閑とした空気に驚かされます。

■明治大学博物館

駿河台に建つ明治大学は、ユニークな博物館を持つことでも知られています。ちょっとのぞいてみましょう。明治大学の博物館には 3 つの部門があります。「商品部門」は商品を通した生活文化を紹介。「考古部門」は歴史ある明治大学の考古学の成果を紹介しており、重要文化財に指定されている考古学資料なども公開されています。
そして、最も興味あふれる展示が見られるのが「刑事部門」。十手などの江戸の捕り物具や世界の拷問・処刑具など人権抑圧の歴史を伝える実物資料が圧巻です！なかでもギロチンやニュルンベルクの鉄の処女は、わが国唯一の展示。充実した展示のほか、私立大学では初めての本格的ミュージアムショップも。ユニークなミュージアムグッズをおみやげにどうぞ。

巨大でモダンな建物にびっくり。
博物館は地下にあり、常設展は無料と、とっても太っ腹。
開館時間は 10 時～ 16 時 30 分

■神保町と古本

神保町交差点を中心とした半径500～600ｍ圏内は、古書店が建ち並ぶ異色のエリアです。神保町に古書店が集まり始めたのは、明治になってからのこと（江戸時代の書籍の出版や販売業は京橋や日本橋が中心でした）。

明治維新とともに、政府の高官や華族、医師などの知識階級が神田に集められたことに加え、官立、私立の各種学校がこぞって神田に設立されたことから、インテリや学生が集まる街として書物の需要が増え、ここに古本屋さんが続々と誕生していったのです。古書店が集まる街としては、パリのセーヌ河畔をはじめ、北京やロンドン、ニューヨークなどが知られていますが、その密集率において神保町は世界最大。さらに、その総合性や専門性においても、文句なしの世界一と胸を張って言えるそうですよ。

この界隈は明治以降、何度も大火事で焼け、特に大正12年の関東大震災では、街のほとんどが焼失・崩壊しましたが、そのたびにすばやい復興をみせてきました。また、第２次世界大戦では奇跡的に空襲を逃れましたが、これはハーバード大学で教鞭をとっていたロシア人のエリセーエフ博士が、貴重な文化財のある神保町一帯を空襲しないようにと米軍に進言したからだと言われています。ちなみに、若き日のエリセーエフ博士は明治41年に来日して、東京帝大の文学科に入学。６年間の日本滞在中に夏目漱石と出会って、生涯、「漱石門下」であることを誇りにしていたそうですよ。

現在、神保町にある古書店は、約140店。テーマをしぼったユニークな古書店も誕生して、いよいよ活気づいています。

神田古書店連盟のＨＰも、なかなかの充実ぶりですよ。

周辺に古書店がぎっしり並ぶ神保町交差点界隈。
脇道、裏道散歩もおすすめです。

【老舗散歩も楽しんでね】

・明神下神田川本店	千代田区外神田２－５－１１	☎03－3251－5031
・天野屋	千代田区外神田２－１８－１５	☎03－3251－7911
・豊島屋本店	千代田区神田猿楽町１－５－１１	☎03－3293－9111
・ホテル龍名館お茶の水本店	千代田区神田駿河台３－４	☎03－3251－1135
・かんだやぶそば	千代田区神田淡路町２－１０	☎03－3251－0287
・いせ源	千代田区神田須田町１－１１－１	☎03－3251－1229

江戸・東京散歩　＜日本橋＞

今回は、日本橋を北詰めを歩きます。このあたり、江戸時代には金座があり、魚市場があり、越後屋（現在の三越日本橋本店）を中心に江戸最大のショッピングエリアが広がっていたところでした。現在も、老舗が軒を連ねて盛業中。
一方で、大規模な再開発プロジェクトが進み、新しいまちづくりもすごい勢いで進行しています。昔も今も胎動を続けている街、そのエネルギーを感じながらの街散歩、楽しんでください。

■日本国道路元標・東京市道路元標

日本橋北詰の西側にある広場に、「日本国道路元標」のレリーフがあります。といっても、実はこれはレプリカ。本物は、日本橋の真ん中にありますが、見学には危険なので、ここにレプリカを置いてあるというわけです。これは昭和42年に都電の廃止に伴い、道路整備が行われたのを契機に造られたもので、プレートの文字は当時の総理大臣、佐藤栄作氏の筆によるものです。つまり、新しい物なんですね。よく見ると、同じ広場には「東京市道路元標」も立っています。こちらは明治44年（1911）、現在の橋に架け替えられたときに、やはり日本橋中央に設置され、昭和47年に移設されたもの。
この「東京市道路元標」の方が、もともとの道路元標といえるかもしれません。いずれにしても、慶長8年（1603）、家康が日本橋を架けて以来、ここ「日本橋」が、全国各地に通じる街道の始まりの場所なのです。

日本国道路元標（レプリカ）。道のりの総元締めです。
本物は日本橋の真ん中にありますが、見学は危険なのでくれぐれも気をつけて。

■日本橋魚市場発祥地碑

日本橋の北詰の東側には「日本橋魚市場発祥地碑」が立っています。江戸の昔、このあたりから三越の東側一帯にかけて、江戸最大の魚市場が広がっていたのです。日本橋魚市場は、家康の関東入国とともに摂津国の佃・大和田両村の漁夫30余名が移住してきて三河岸舟町（現在の大手町2丁目常磐橋あたり）で幕府の魚御用を勤め、慶長年間（1596-1614）頃から残った魚介類の小売りを始めたのが始まりとされています。碑のとなりの白い観音像の下には上記のようなことを刻んだ久保田万太郎による碑文がありますが、残念ながらほとんど読み取れません。
約300年間、ここから江戸っ子たちの胃袋を満たす海の幸を提供し続けていた「日本橋魚市場」。現在、日本橋の北東エリアに海苔や佃煮、鰹節、はんぺん・かまぼこといった海産物製品の老舗が並んでいるのは、この魚市場の歴史がいまに続いているからなんですね。

日本橋魚市場発祥地碑。
繁栄時には1日千両ものお金が動いていたという日本橋魚市場は、大正12年9月の関東大震災により炎上したことが大きなきっかけとなって、その役割りを築地に譲り、長い歴史の幕を閉じました。

■日本銀行本店

三越日本橋店の西側に、重要文化財にも指定されている堂々たる建築物が建ってます。これが、日本銀行本店。江戸時代は、ここに「金座」が置かれ、大判・小判・一分金などの金貨が造られていたんです。
御金改役は、特権商人の後藤家が世襲。後藤さんの話は、【日本橋1】の一石橋の項でも出てきましたけど、覚えていますか？
一般の銀行と違って、私たち一般庶民は日本銀行にあまり縁がなさそうですが、内部見学(約1時間)ができて、史料公開なども行っているのでのぞいてみましょう。無料ですが、事前予約が必要。少なくとも1週間前までに電話で連絡をしてください。くわしくは以下まで。 TEL.03(3277)2815

日本銀行本店。東京駅などを設計したことでも知られる辰野金吾（たつのきんご）博士＜安政元年～大正8年＞の設計により、明治29年に完成。
柱や丸屋根などのバロック様式に、規則正しく並ぶ窓などのルネッサンス様式を取り入れた「ネオバロック建築」で、ベルギーの中央銀行を手本にしたといわれています。
明治中期の西洋式建築物としては、東京・赤坂の迎賓館とならぶ傑作とされ、国の重要文化財に指定されています。

■貨幣博物館

お金のことならなんでもわかる博物館が、「貨幣博物館」。日本銀行本店の南向いにある「日本銀行金融研究所」のビルの中にあります。秀吉によって鋳造されたピカピカの「天正大判」をはじめとする大判小判の本物を見ることができるほか、明治初期の貨幣の混乱や日銀の設立など、古代から現代までの日本の貨幣の歴史がわかりやすく展示されています。

2004 年秋に発行が予定されている新しい 1 万円札や千円札（見本券）も展示されていて、偽造をふせぐための工夫などの解説もなかなかおもしろいですよ。入場は無料。休館日は月曜日と祝日、年末年始です。くわしくは、下記の HP を見てください。 https://www.imes.boj.or.jp/cm/（貨幣博物館）

貨幣博物館。
お堅い話ばかりのインテリ向きの博物館みたいですが、カップルの姿もちらほら。
企画展も充実しています。

■十軒店（じっけんだな）跡

十軒店といえば、人形市のたつ場所として有名だったところ。現在、人形店が並ぶのは浅草橋付近ですが、江戸時代はこのあたりに人形店が軒を連ねて並んでいたのです。雛人形や武人形のほか、羽子板なども、このあたりで盛んに作られていたんですね。

現在は、説明板が立っているだけで、その面影はありませんが、当時は節句のたびにこのあたりに大きな市がたって、江戸っ子が押しかけていたんです。いまよりも、生活のなかで節句の行事が大切にされ、また庶民の楽しみとされていたんですね。十軒店と人形については、【老舗の知恵袋　歳時記】の「3 月」の項を見てください。

なお、中央通りをへだてた向い側には、江戸時代、赤穂浪士の大石内蔵助や大石主税ら 7 人がその離れに隠れ住んでいた「小山屋」がありました。浪士たちは、意外や、街なかにひそんでいたんですね。

十軒店跡の碑。
人形の市がたって、人々でにぎわった十軒店のおもかげはありませんが、その歴史を説明する碑が立っています。

【老舗散歩も楽しんでね】

・室町砂場	中央区日本橋室町４－１－１３	☎03－3241－4038
・千疋屋総本店	中央区日本橋室町２－１－２　日本橋三井タワー内	☎03－3241－0877
・山本海苔店	中央区日本橋室町１－６－３	☎03－3241－0261
・日本橋弁松総本店	中央区日本橋室町１－１０－７	☎03－3279－2361
・神茂	中央区日本橋室町１－１１－８	☎03－3241－3988
・日本橋さるや	中央区日本橋室町１－１２－５	☎03－5542－1905
・にんべん	中央区日本橋室町２－２－１　コレド室町１	☎03－3241－0968

江戸・東京散歩　＜日本橋＞

今回の散歩は、日本橋の東に走る昭和通りを東側に越えた一帯。日本橋小伝馬町・大伝馬町・小舟町・人形町・蛎殻町など、江戸の香りを今に伝える町名が次々に現れます。江戸時代には大店が軒を連らね、さまざまな工芸文化が生まれ、そして歌舞伎が練り上げられていった地域。ビルの間に残る江戸以来の商家の毅然とした古きよきたたずまいも必見です。今回はいつもと趣向を変えて、それぞれの町についてもご紹介します。

■大伝馬町（おおでんまちょう）

大伝馬町は、もとは現在の皇居･呉服橋あたりにありました。伝馬とは馬の背に荷物を積んで宿から宿に送る制度で、その役所が江戸城の呉服橋門内にあったのです。その後、慶長 11 年（1606）に隅田川河口が埋め立てられ、現在の地に移転。その後の大伝馬町は、問屋が軒を並べる一大商業地に発展していきました。掘割がめぐらされ物資運搬の便がよいことから、伊勢をはじめとする地方の大きな商家がこの地を江戸店を置く場所として選んだのです。
木綿や布地の問屋が多かったので「木綿店（もめんだな）」とも呼ばれ、その賑わいぶりは『江戸名所図会』にも描かれています。

■宝田恵比寿神社

大伝馬町にある神社で、もとは宝田村の鎮守として皇居前にありました。商売繁盛、家族繁栄、火防の神として古くから篤い信仰を集めており、祭壇中央に安置されている恵比寿さまは、慶長 11 年、三伝馬取締役の馬込勘解由が徳川家康から受けたもの。運慶作とも、左甚五郎作とも伝えられています。
ビジネス街のビルにはさまれて普段はひっそりとしていますが、毎年 10 月 19・20 日の大祭（恵比寿講）には縁日「べったら市」が催され、大賑わいに。
べったら市については【老舗の知恵袋／江戸の歳時記】の 10 月の項も参考にしてくださいね。

日宝田恵比寿神社。
「べったら市」が有名ですが、お正月は日本橋七福神詣の人々がお参りの列を作り、1 月 20 日の初恵比寿にも屋台も出て、とても賑わいます。

■伝馬町牢屋敷・吉田松陰終焉の地（十思公園）

小伝馬町の交差点の北東角を裏へまわりこむと「中央区立　十思公園」という小ぢんまりした公園があります。ここが､時代劇でもおなじみの「伝馬町の牢」があったところ。安政の大獄（1858）でとらえられた吉田松陰も、ここに投獄され、刑死。園内に「吉田松陰先生終焉之地」の石碑があり、「身はたとひ武蔵の野辺に朽ぬとも留置まし大和魂」の辞世が刻まれています。
牢屋敷がここに設けられたのは慶長年間（1596 ～ 1615）のことで、明治 8 年に市ヶ谷に囚獄ができるまでの約 270 年間で数十万人が投獄され、1 万人以上が刑死したと伝えられています。
十思公園の入口に建つ大安楽寺は、明治になって牢屋敷跡地が公園となったものの、人々が寄りつかず荒廃していったため、大倉組（大成建設の前身）の創立者大倉喜八郎と、安田銀行（みずほ銀行＜富士銀行＞）の創立者安田善次郎が費用を出して明治 15 年に建立した寺。
また、園内には江戸の「時の鐘」の一つである「石町（こくちょう）の鐘」も保存されています。刑がある日には、少し遅く鐘をついたと伝えられています。

（左画像）十思公園の入口にある大安楽寺。
（中央画像）公園内に建つ「吉田松陰先生終焉之地」碑。
（右画像）十思公園は、サラリーマンや OL が集う緑豊かな公園。鐘楼に吊り下げられている「石町の鐘」は、宝永 8 年（1711）の改鋳にされたものです。

■小舟町（こぶなちょう）

大伝馬町の南側にあたる小舟町も、同じく舟運の要地であり、大きな商家や問屋が軒を連ねる繁華な地でした。呉服などの繊維関係はもとより、書籍や刷り物、版木を扱う店、鼈甲、化粧用具、文具、金物、小間物店などなど、江戸っ子の粋をささえる様々な工芸が、ここから生まれたのです。明治の財界の雄、安田善次郎が慶応２年（1866）、ここに両替業「安田商店」を開いたのも、このエリアが活気あふれる商いの町だったからこそ。金融業や実業界の大物たちが住む場所でもありました。

なお、昭和になって小舟町に編入された町で、昔「堀江町」と呼ばれていた町は、多くの団扇（うちわ）問屋が集まる街でした。特に寛政年間の後から色刷りの歌舞伎絵が描かれるようになると、江戸中の女性が錦絵の団扇を争って求めるほどの大ブームに……。

安政３年の史料によると、ある団扇問屋が下級武士たちに内職として出した団扇張りの本数は１年間に 192 万 5000 本。当時の団扇ブーム、浮世絵ブームがわかりますね。広重や北斎なども団扇のために絵を描いたそうですよ。

もう一つオマケに、堀江町の一角にあった「照降町」と呼ばれた町のご紹介も。これは江戸時代、下駄や傘、雪駄を売る店が並んでいた通りにつけられた愛称です。「てりふり」とも「てれふれ」とも記されていますが、いずれにしても「雨が降れば傘や下駄が売れ、晴れた日には雪駄が売れた」町でした。

江戸っ子のネーミングセンスは、粋ですね。

安田銀行（みずほ銀行＜富士銀行＞）の創業地跡。
「小舟町記念館」の名前が出ていますが、公開はしていません。
東隣に、みずほ銀行小舟町支店があります。

■人形町（にんぎょうちょう）

人形町は、江戸初期から遊郭と芝居小屋街が融合した歓楽街として発展した町です。遊郭とはいうまでもなく吉原のことで、明暦の大火（1658）後、遊郭が浅草の一角に移るまで、ここが江戸最大の遊興の地として栄えました。

また、町名の由来となったあやつり人形の芝居小屋や、歌舞伎小屋も集まっており、天保の改革でこれまた浅草に劇場街が移されるまでの 200 年間、人形町が江戸のエンタテインメントの中心として栄えました。人形町の交差点の東北側の歩道にある「玄冶店（げんやだな）」の説明版も芝居ゆかりの場所。

「粋な黒塀、見越しの松に・・・」の歌謡曲でも有名になった歌舞伎『与話情浮名横櫛』お富・与三郎の再会の場です。

なお、明治に入ると芳町、浪花町（現在の人形町２丁目あたり）は芸妓の置屋やお茶屋が集まる、一流の花街となりました。日本の女優第一号･マダム貞奴も、“粋でおきゃんで芸がたつ“ ともてはやされた芳町芸者の一人でした。

「谷崎潤一郎生誕の地」のレリーフ。
この場所は、谷崎潤一郎（1886 ～ 1965）の祖父が経営していた「谷崎活版所」の跡。
人形町の「甘酒横町通り」沿いにあります。

■水天宮

ご存知、安産・子育ての神様として有名なお社です。文政元年（1818）に有馬頼徳（よりのり）公が領地である久留米水天宮の御分社として三田の赤羽橋に創建したのが始まりで、明治５年に、ここに移されました。

参拝した妊婦さんが、鈴を鳴らすさらしの紐のおさがりをいただいて腹帯としたところ安産だったといううわさが広まり、以後、安産利益の神様として広く信仰されるようになったそうです。

普段の日でも子ども連れのほほえましい参拝光景が見られますが、とくに毎月５日の縁日の日と戌の日は、安産祈願や子授け祈願の人たちがたくさん訪れています。

水天宮は安産の神様。
身重の人を気遣って、エレベータも設置されています。

【老舗散歩も楽しんでね】

・伊場仙	中央区日本橋小舟町４－１	☎03－3664－9261
・竺仙	中央区日本橋小舟町２－３	☎03－5202－0991
・江戸屋	中央区日本橋大伝馬町２－１６	☎03－3664－5671
・人形町志乃多寿司總本店	中央区日本橋人形町２－１０－１０	☎03－5614－9300
・うぶけや	中央区日本橋人形町３－９－２	☎03－3661－4851